

# 第6章

## 復興後の大船渡市に向けて

### 1. こども会議

震災の半年後に当時中学生・高校生として「こども復興会議」に参加した皆さんに改めてお声がけし、9年前に考えていたことや、震災後10年経とうとしている大船渡市の現在や将来について語っていただきました。

当時中学生だった皆さんは、大学に通っていたり、あるいは社会人になっていたりと様々な道を歩んでいますが、各々の目から「大船渡に住み続けるには」といった視点で意見交換を行いました。

実施日	令和2年10月11日
参加者	新沼 南、三宅 友美、今野 愛太、近江 将貴、橋本 陸 (9年前、震災から約半年後の平成23年9月のこども復興会議に参加した当時中学生だった5人)
概要	こども復興会議に参加した当時と現在の復興に対する印象、これからの大船渡市に対して思うこと等の意見交換を行いました。



### 2. 市民グループインタビュー

震災の半年後に実施した市民ワークショップと同様に市民目線からの「復興」や大船渡市の将来を語ることをテーマに社会人と高校生の対話形式でグループインタビューを行いました。

大船渡に住み続けること、戻ってくること、移住してくることの良さなどをはじめとして高校生の不安や疑問に答える形で社会人の皆様に語っていただきました。

実施日	令和2年10月12日
参加者	(社会人)志田繡隆、熊谷侑希 (高校生)原佳祐、菊池麻友、小林友香、高橋真実、後藤陽菜
概要	大船渡市の復興に対する印象やこれからのまちに対して思うこと等の意見交換を行いました。



実施日	令和2年10月19日
参加者	(社会人)今野凌、菅野香澄 (高校生)及川隼人、石橋勇典、炭釜大地、佐藤水綺、志田菜々花
概要	大船渡へのU、Iターン者の社会人と高校生による大船渡のまちの復興や社会についての意見交換を行いました。

### 3. 防災学習ネットワークの形成

当市では、東日本大震災の大津波により、沿岸部の地域が未曾有の被害を受けた一方、被害を免れた内陸部の地域では、震災発生直後から被災地域への後方支援活動に当たり、早期復旧に貢献したことから、その経験や教訓を次世代に引き継ぐとともに、防災について広く学べる場を創出することにより、災害に強い多重防災型まちづくりを推進することとしています。

このため「(仮称)防災学習センター等整備検討官民会議」を設置し、基本計画策定に向けた検討などを経て、令和2年12月に「大船渡市防災学習ネットワーク形成基本計画」を取りまとめました。

基本計画では、当市の防災学習について、単一の施設で

担うのではなく、市内の既存施設に特徴を持たせ、連携・回遊を促すことを基本とし、地域住民との協働による持続可能な運営を目指しています。

この計画に基づき、市の中心部にある大船渡市防災観光交流センター(おおふなぼーと)をゲートウェイ(玄関口)と位置付け、市内各所の紹介や誘導を図るとともに、震災当時避難所であった赤崎町の漁村センターを防災学習館として整備し、東日本大震災の伝承や復旧・復興だけにとどまらず、近年、頻発している台風や大雨等の大規模自然災害への備えや危険性などについても学ぶことができる総合的な防災学習の場として整備することにより、当市における防災・減災に向けた取り組みを推進することとしています。